

4. 論文の訂正：査読審査の結果，原稿の訂正を求められた場合は，40日以内に，訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて，前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること，なお，Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
6. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
 - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,500円，英文は6,500円，超過頁は1頁につき7,000円，写真の製版代，凸版，トレース代，別冊，送料などは別に実費を申し受ける。
 - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は30,000円，6頁以上は1頁毎に10,000円を加算した額を申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果，測定試薬の成績，治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については，掲載料を別途に申し受ける。
7. 別冊：実費負担とし，著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

編 集 後 記

日本では自由診療は殆ど行われていない。臨床医は保険医となり，保険医療機関において，健康保険法等に基づき医学的に妥当適切な診療を行い，診療報酬が支払われることになっている。いいかえると，日本の医療は保険診療であり，各種関係法令に基づく，保険者と保険医療機関との間の公法上の契約の範囲内で行われるものである。だから，診療報酬請求の根拠になる診療記録はきちんと記録し，診療報酬明細書は自分が作成しない場合は必ず目を通し診療記録等と照合し，誤りや不備がないように十分に点検を行わねばならない。こんなことを開業医にいうと当たり前じゃないかと笑われる。しかし，勤務医はこの当たりのことがなされていない場合がある。過日ある厚生省の技官（医師）が，「自分が勤務医としてはじめてある病院に赴任したとき，部長が診療報酬で査定を受けたらそのぶん君の給料から差し引くぞ」といわれたと，冗談とも本気ともつかぬ話をしていたが，現場ではそのくらい厳しいのが現実なのである。

考えてみるとこのような基本的なことを大学ではほとんど教えていない（いなかった？）ように思う。研修医になってからでは遅く，学生の中に教育しておく必要があるのではないか。「そんなことは病院事務でやることで，俺の知ったことか」と云う医師がいたならば，日本では診療ができないと思ってもよい。

小生も教授また大学病院長時代にこの点の自覚が不十分であったと猛省しきりのこの頃である。

（吉田 修）